

夜景のプロが徹底解剖



丸々もとお
夜景評論家 / 夜景プロデューサー / イルミネーションプロデューサー
(一社) 夜景観光コンベンション・ビューロー 代表理事

夜の移動中も楽しい! 「日本新三大夜景」の新たな楽しみ方とは?

2015年に誕生した「日本新三大夜景都市(通称・日本新三大夜景)」。2017年の改選を経て、現在は長崎市、札幌市、北九州市の三都市が認定されている。各都市には多くの夜景が存在しているが、長崎市は「稲佐山」、札幌市は「藻岩山」、北九州市は「皿倉山」がその代表格。山上からの大パノラマはどれも素晴らしい。しかし本企画では視点を換え、それら夜景スポットまでのアクセス、つまり「移動中に楽しめる夜景」に注目してみた。ガイドブックには意外と書かれていないその魅力を知り、アフターコロナではぜひ現地で体験して欲しい。

長崎市

いま最もアツい! 世界初の夜景演出に注目。

長崎はすり鉢状に山々を取り囲まれ、鍋冠山公園や風頭公園、グラバー園など、山上の夜景スポットが多い街。その中から今回の目的地は、全国トップクラスの夜景名所として知られる「稲佐山展望台」を目指したい。標高333mから女神大橋のライトアップや市街地のパノラマが鑑賞でき、山の中腹に点在する家明かりや街灯が、まるで地上に瞬く星空のような特有の景観美を創出している。最近特に話題を集めているのが、夜景の中に「星座」や「ハート」が現れるという驚きの仕掛け。世界初の照明「夜景灯」を用いて、季節やイベントの時期によって変化する感動の演出だ。夜景への期待は高まるばかりだが、ここでは移動中も楽しめる長崎夜景の魅力に触れていこう。



「移動中に楽しめる夜景」その1

カップルにもおすすめ! ロマンティックな空中遊覧

初めて稲佐山へ訪れる方にお薦めしたい移動のひとつがロープウェイである。「淵神社駅」から「山頂駅」まで向かうゴンドラはくり360度ガラス張りの斬新なデザインだ。乗車位置は進行方向とは逆、後方のスペースがオススメ。市街地の距離が近く感じ、ガラス越しに映る夜景を独り占めしたような贅沢感を味わえるのだ。山頂に近づくと連れ、街明かりが微細な星のように変わってゆく光景はロマンティックそのもの。5分という時間があつという間に感じる極上の空中遊覧を味わってもらいたい。



「移動中に楽しめる夜景」その2

臨場感が凄い。 アトラクション型の夜景鑑賞。

稲佐山中腹までバスや車で上り、スロープカーを利用して山頂へ向かう移動手段もオススメだ。全面ガラス張りの車内から山頂まで約8分の夜景鑑賞が楽しめる。ロープウェイと比較すると夜景との出会い方が異なる。出発後、山肌沿いにレールの揺れを感じながらゆっくり上る感覚。これはジェットコースターで徐々に最上部まで上り詰めていくようなスリル感だ。さらに五島灘の静寂の海夜景が展開。時期やタイミングが合えば漁火が楽しめるだろう。徐々に東側の眺望が広がり、長崎市街地のパノラマが登場。山影から見えてくる光の大草原は、動いている状態眺めるからこそ光の量が倍増して感じられインパクトが強い。そして、このアトラクションのような急勾配を進む車内だからこそ臨場感も強くなるのだろう。驚きが連続する夜景体験は癖になりそうだ。



稲佐山山頂に到達するためにはふたつの移動手段があるが、どちらに乗りしても長崎ロープウェイ「稲佐岳駅」から始まる光のトンネルがあなたを導いてくれるだろう。トンネルの天井部に設置された約7000個のLEDにより花火やランタン等の光演出が登場。時期によって異なる色彩や柄が来訪者を楽しませてくれるのだ。このように移動中の最後に夜景への期待感を盛り上げる演出が登場するのだが、ロマンティックな時間が楽しめるロープウェイと臨場感&インパクトが堪能できるスロープカーを目的や気分によって組み合わせながら、長崎の「移動夜景」の醍醐味をぜひ最大化して欲しい。

札幌市

豊かなバリエーションを満喫する札幌夜景とは?!

札幌夜景の特徴は、JRタワーや大倉山、旭山記念公園など、地上から500m級まで標高の異なる豊富な視点を有する点だ。市内に多くのスポットが存在する中、大通公園から郊外にある絶景名所「藻岩山」を目指したい。標高531mの展望台から200万人が住む都市光が煌めき、「光の絨毯」や「宝石箱」とも称された夜景が一望できる場所だ。晴れた日には「日本百名月」に認定された名月との共演が感動的なクライマックスを演出してくれるだろう。移動中も視点の高さの違いに注目しながら、札幌夜景の奥深さを味わって欲しい。



「移動中に楽しめる夜景」その1

多彩な色と光を浴びる。 アドベンチャー感満載の夜景鑑賞。

出発地点は地上(海拔約21m)の大通公園だ。最寄りの札幌市電「西4丁目」停留所から内回り・外回りルートのどちらかを選ぶが、外回りルートがいい。藻岩山へ向かう場合は一般的に内回りルートだが、外回りでは市街地の様々な夜景名所に出会えるのだ。車窓からは札幌最大のアーケード商店街である狸小路やネオン輝くすすきの、ビルの上に煌々と輝くカラフルな観覧車など、鮮やかな色光に包まれた都市夜景を存分に満喫できる。車窓から見上げる夜景が次々と移り変わる、時速30kmの魅惑のアドベンチャーライドを楽しんで欲しい。



「移動中に楽しめる夜景」その2

まるでトリックアート? 夜景の変化が魅力。

市街地を抜ける約30分で札幌市電「ロープウェイ入口」に到着。降車後は近くの無料シャトルバス乗り場から「ロープウェイ山麓駅」行きのバスに乗り乗しよう。山麓駅に到着すると、標高70mに位置するチケット売り場へ。観覧車やテレビ塔のライトアップがほぼ平行目線で望めるだろう。その後、メインのロープウェイに乗り乗。出発後は早い段階で視野が広がり、林立する高層ビル群がそびえ立つダイナミックな都市夜景が出現。ここから約5分間、標高450m付近まで想像以上の体感スピードで上昇する移動中が面白い。出発時に眺めた都市のビル群がみるみると小さくなり、北海道の広大な大地に広がる光の絨毯へと一気に変貌。立体的な夜の街が平面的な光のパノラマへと景観が変化する夜姿(よなり)は、まるでトリックアートを見ているような錯覚さえ覚える。約400m近い標高差が生む「移動夜景」の真骨頂を感じながら、この先に待つ山頂の夜景に期待も高まるばかりだ。



「移動中に楽しめる夜景」その3

我儘の先に待ち受ける サブライム夜景

標高450mの中腹駅到着後、山頂へ向かうミニケーブルカー(通称・もーりすかー)に乗り換えよう。ミニケーブルカーのスタート地点はトンネル内部で、出発後の数十秒間は木々に囲まれながら進むため、あまり夜景が見えない。しかし、途中でレールの勾配が急峻となり、一気に上昇。樹木の高さを超え、山頂駅付近でようやく札幌の大パノラマに出会えるのだ。ギリギリまで焦らされながら出会える宝石のような煌めきには感動。僅か2分間のサブライムな演出性の高さこそ、ミニケーブルカーの醍醐味だ。



市内最高峰の標高531mに位置する屋上展望台は遮るものなく、夜空や大地の圧倒的な広さを感じる光の世界が広がる。移動中にも多くのパノラマを楽しんできたが、車内の夜景と比べても溢れんばかりの開放感に気分も最高潮だ。一方、市電やロープウェイ、ケーブルカーなど跳める高さを変えながら、山頂への期待感を高める演出はまさにナイトエンターテインメント。大通公園から藻岩山山頂まで、心揺さぶるアドベンチャー感に満ち溢れた「移動夜景」をぜひ堪能してほしい。

北九州市

新しい仕掛けが続々登場。最も注目の夜景先進都市

北九州の夜景と言えば、何を思い浮かべるだろうか?工場夜景という人もいれば、若戸大橋や高塔山公園、門司港のライトアップや小倉イルミネーションという人もいるだろう。それだけ北九州はバリエーション豊かな夜景の宝庫として知られているのだ。その一方、昨年11月には「日本新三大夜景」中間ランキングで堂々の第一位を獲得するほど、夜景観光都市としての注目度も高まっている。昨年、小倉城庭園では日本初となる常設型の日本庭園ライティングショーが誕生。全国有名サミットの開催や小倉城でのデジタル掛け軸イベント、無料で観光施設を巡れるクーポン付きの夜景観光バスポートなど、ハードとソフトの両面で次々と話題性の高い夜間の仕掛けを生み出しているのだ。見どころは尽きないが、今回は北九州を代表する夜景名所で、期間限定の藤棚イルミネーションも実施中の皿倉山山頂を目指して移動中の夜景を楽しもう。



「移動中に楽しめる夜景」その1

ドキドキが止まらない、 不安からの開放感!

まずは JR八幡駅からタクシーで約10分、「ケーブルカー山麓駅」へ全乗。スタート地点は山麓駅で出迎えてくれるのが、全長1,100mの西日本最長級ケーブルカーだ。移動中の夜景を楽しむには後座席がオススメ。木々の合間から徐々に夜景が現れ始め、洞海湾とその向こうに若戸大橋のライトアップが登場。赤々と灯る橋梁はこれから始まる夜景ツアーの出発ゲートにも見えてくるようだ。しばらくは洞海湾の一部と眼下に広がる住宅の明かりを楽しみ眺望が続くが、山頂駅が近づくと急展開。樹木の高さを超え、山頂駅付近で一気に標高が上がるのだ。湾曲する洞海湾に沿って、三菱ケミカルの煙突やプラント群、日本製鐵のガントリークレーン、黒崎・折尾エリアの住宅光など、白やオレンジの色彩が不規則に散りばめられたインパクトの強い産業都市の夜景が楽しめる。ケーブルカーでの移動は視野の広がりと共に夜景への期待感も高まり、その先に出会う夜景の魅力にもたつぷり没入ははずだ。



「移動中に楽しめる夜景」その2

贅沢の極み。 まるで映画鑑賞のような移動夜景!

山頂駅に到着後は駅舎の待合所を経由し、山頂へ向かうスロープカーに乗り換えよう。崖から突き出るように設置されたスロープカーにドキッとすることも少ないが、車内に入ってしまうと全く気にならない。出発後は車内が消灯し、ブルーの足元灯が点灯。まるでお洒落なバーのような空間だ。このスロープカー最大の驚きは、夜景に対して横向きに移動するという点。最初は西側の夜景。洞海湾を中心とした黒崎エリアの遠く溢れる工場群が望め、徐々に北西側へ移動すると都市高速の道路照明や JRの線路による線状の光、枝光や戸畑周辺に広がる微細な住宅光が広がってゆく。山・川・海が創り出した漆黒の闇と埋め尽くされた都市光で切り取られた景観にインスピレーションも刺激され、僅か3分という短い時間ながら感動のショートムービーを見たような充実感を味わえること間違いなし。



山頂展望台では視野も広がり、北東部の小倉駅周辺の都市光や東側の関門海峡まで西から東まで200度を超えるようなダイナミックな夜景が楽しめる。展望台の横にある階段で絶賛公開中の藤棚イルミネーションと夜景のコラボレーション撮影もオススメしたい。皿倉山は単に山頂だけが素晴らしいだけでなく、縦移動のケーブルカーと横移動スロープカーの組み合わせが夜景を満喫する最大のポイントだ。視点を換え、夜景の鑑賞における価値観を広げてくれる稀有な「移動夜景」と言えるだろう。